

福井市日之出小学校 いじめ防止基本方針

令和5年4月1日 改訂

前文

いじめは、いじめを受けた児童の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長および人格の形成に重大な影響を与えるだけでなく、その生命または身体に重大な危険を生じさせるおそれがあります。いじめをなくすには、「いじめは絶対に許されない」「いじめは卑怯な行為である」ことを児童が十分に理解することが大切です。

この基本方針は、本校におけるいじめ防止に係る基本的理念および責務を明らかにするとともに、いじめ防止および解決を図るための基本となる事項を定めることにより、児童が安心して生活し、学ぶことができる環境をつくるためのものです。

ー福井県いじめ防止基本方針よりー

1 いじめの防止等の対策に関する基本理念

- (1) 本校は、一人ひとりが互いの人格の尊厳を大切にし、相互に尊重し合う社会を実現するため、児童が自分自身を大切にし、他者を思いやり、互いに助け合う「心の教育」と、そうした心に従い、勇気をもって行動できる人として育てることを重視します。
- (2) 本校は、すべての児童が、まず、どんなことがあってもいじめを行わないこと、いじめを認識しながらこれを放置しないこと、いじめが、いじめられた児童の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為であることについて、ロールプレイ等を活用した指導で、十分に理解できるように努めます。
- (3) 本校は、児童が安心して生活し、学習その他の活動に心豊かに取り組むことができるよう、いじめをなくすことを目的に、市町、市町教育委員会、家庭、地域の関係者と連携して、いじめの防止等の対策に全力で取り組みます。

2 いじめの定義と判断

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的にすることなく、いじめられた児童生徒の立場に立つことが必要である。この際、いじめには、多様な態様があることに鑑み、法の対象となるいじめに該当するか否かを判断するに当たり、「心身の苦痛を感じているもの」との要件が限定して解釈されることのないよう努めることが必要である。例えばいじめられていても、本人がそれを否定する場合が多々あることを踏まえ、当該児童生徒の表情や様子をきめ細かく観察するなどして確認する必要がある。ただし、このことは、いじめられた児童生徒の主観を確認する際に、行為の起こったときのいじめられた児童生徒本人や周辺の状況等を客観的に確認することを排除するものではない。なお、いじめの認知は、特定の教職員のみによることなく、法第22条の学校いじめ対策組織を活用して行う。「一定の人的関係」とは、学校の内外を問わず、同じ学校・学級や部活動の児童生徒や、塾やスポーツクラブ等当該児童生徒が関わっている仲間や集団（グループ）など、当該児童生徒と何らかの人的関係を指す。また、「物理的な影響」とは、身体的な影響のほか、金品をたかられたり、隠されたり、嫌なことを無理矢理させられたりすることなどを意味する。けんかやふざけ合いであっても、見えない所で被害が発生している場合もあるため、背景にある事情の調査を行い、児童生徒の感じる被害性に着目し、いじめに該当するか否かを判断するものとする。なお、例えばインターネット上で悪口を書かれた児童生徒がいたが、当該児童生徒がそのことを知らずにいるような場合など、行為の対象となる児童生徒本人が心身の苦痛を感じるに至っていないケースについても、加害行為を行った児童生徒に対する指導等については法の趣旨を踏まえた適切な対応が必要である。加えて、いじめられた児童生徒の立場に立って、いじめに当たると判断した場合にも、その全てが厳しい指導を要する場合であるとは限らない。例えば、好意から行った行為が意図せずに相手側の児童生徒に心身の苦痛を感じさせてしまったような場合、軽い言葉で相手を傷つけたが、すぐに加害者が謝罪し教員の指導によらずして良好な関係を再び築くことができた場合等においては、学校は、「いじめ」という言葉を使わず指導するなど、柔軟な対応による対処も可能である。ただし、これらの場合であっても、法が定義するいじめに該当するため、事案を法第22条の学校いじめ対策組織へ情報共有することは必要となる。

ーいじめの防止等のための基本的な方針（文部科学省）より抜粋ー

3 いじめの防止等のための具体的取組み

(1) 「思いやりや助け合いの心をもって行動できる」子どもを育てる教育

○勇気づけて自信を育てる教育

児童の適切な行動を認め、勇気づける言葉がけを行い、児童が自己肯定感を高めていけるよう努めます。一人ひとりが自己肯定感を高めていくことで、互いのよさを認め合い、人間力を高めていけるように努めます。また、結果だけでなく取り組む姿勢や過程を認めることで、困難をも乗り越えていく活力と強い心を与え、新しいことにチャレンジしていく意欲を引き出していきます。

○人権教育の推進

人権教育を計画的に進め、発達障害のある児童への理解を深めたり、家庭環境の違いで優劣等の意識をもつことの誤りに気づかせたりなど、自分だけでなく、他の人の大切さも認めることができる態度を育てます。校区内の東養護学校を訪問したり(3年生)、校区の保育園児・幼稚園児を校内体育大会に招待して交流種目を実施したりする(1・2年生)ことで、障害をもつ人や小さい子どもへの理解や思いやりの心を育てます。

○体験活動の推進

集団宿泊体験やたてわり活動・ボランティア活動・異学年間の交流活動等を通して児童の絆を強め、お互いに認め合い助け合う心を育てます。また、心の成長に必要な体験活動を意識して実施します。

○道徳教育の推進

発達段階に応じた指導を計画的に行うことにより、思いやりの心や認め合い学びあう心、感謝の心を育てます。体験活動と関連させて道徳の時間を実施することで、内面的自覚が深まるよう努めます。

中学校区教育の中で道徳教育を推進し、4つの小中学校が連携を図りながら、思いやりの心の育成に努めます。

(2) 学校評価への位置づけ

○いじめの防止等のための取組み(環境づくり、マニュアルの実行、アンケート、個人面談・保護者面談の実施、校内研修の実施等)に係る項目を学校評価に位置づけ、学校におけるいじめ防止等のための取組の改善に努めます。

○評価項目

【教職員】

- ・児童の人権意識が高まるように心がけている。
- ・児童が自己肯定感を高め、自尊感情を育むように心がけている。
- ・学級通信等で、いじめ防止の取組みを児童や保護者に伝えている。
- ・児童や保護者が相談しやすい環境づくりに努めている。
- ・いじめを早期発見できるように、定期的にアンケートや面談を実施している。
- ・児童に不適切な言動があった場合、その場で注意・指導している。
- ・いじめの行為が疑われる場合、一人で抱え込まずに、速やかに学校の「いじめ対策委員会」に報告している。
- ・いじめに係る情報が学校の中で共有され、解消に向けて組織的に対処している。
- ・マニュアルや年間行動計画にしたがって適切に対応している。
- ・いじめ防止等について、校内研修に取り組んでいる。

【児童】

- ・いじめの行為を見聞きした場合、速やかに先生や保護者等に伝えることを心がけている。
- ・学校(先生)は、悩みや不安を相談しやすい。
- ・学校以外にも相談できるところがあることを知っている。
- ・アンケートや面談を通して、悩みや不安を先生に伝えている。

【保護者】

- ・学校は、子どもの気がかりなことを相談しやすい体制を整えている。
- ・学校は、自校の教育相談担当者を含め、複数の相談機関を紹介している。
- ・学校は、いじめ防止等のための取組を、学校ホームページや学級通信等で、児童や保護

- 者に伝えている。
- ・学校は、アンケートや面談を定期的実施する等、子どもの不安等を把握する取組を行っている。

(3) いじめの未然防止

- いじめ対策委員会の設置
いじめ対策について、指導の方策を協議し、具体的な活動を計画、実践します。
- 授業改善
すべての児童にとって、分かりやすい授業のあり方について、公開授業や授業研究を行い、児童が楽しく学べる授業づくりに努めます。
- いじめの起きない学校・学級づくり
縦割り班活動や異年齢交流活動を行い、児童が安心して過ごせる「心の居場所づくり」や児童が主体となって互いに認め合い励ましあう「絆づくり」を進めます。
- 児童の主体的活動の充実
学級活動や児童会活動等を活用して、児童の主体的な活動によるいじめ防止等の取組を推進します。
- 開かれた学校づくり
「開かれた学校」の観点に立ち、いじめへの対処方針や年間指導計画等、いじめ防止策に関する情報を積極的に公表し、保護者や地域住民等の理解や協力を求めます。
- インターネットや情報機器に関する指導
インターネットや情報機器・スマートフォン・携帯電話・タブレット・ゲーム機等の利用について、学校独自のルールづくりを通して、児童や保護者が危険性や注意点等を考える機会を設けます。また、国の「教育の情報化に関する手引き」等を活用し、情報モラル教育の充実に努めます。
- 特別な配慮が必要な児童に対する支援
以下の児童を含め、特に配慮が必要な児童について、日常的に、当該児童の特性を踏まえた適切な支援を行うとともに、保護者との連携、周囲の児童に対する必要な指導を組織的に行います。
 - ① 発達障害等の障害のある児童
 - ② 海外から帰国した児童や外国人の児童、国際結婚の保護者をもつなどの外国につながる児童
 - ③ 性同一性障害や性的指向・性自認に係る児童
 - ④ 東日本大震災で被災した児童または原子力発電所事故により避難している児童
- 全校教育相談週間
全校児童が、担任と個別に悩みや友達関係について話をする機会を教育相談週間として年2回設け、些細なことでも担任に気軽に相談できる雰囲気を醸成します。
- 地域に開かれた学校
「開かれた学校」の観点に立ち、いじめへの対処方針や年間指導計画等、いじめ防止策に関する情報を積極的に公表し、保護者や地域住民等の理解や協力を求めます。
- インターネットや携帯電話等に関する指導
児童にインターネットや携帯電話等の正しい利用の呼びかけや意識付けを行い、インターネット利用について改善を促します。保護者にもインターネット利用に関するルールづくり等の働きかけを行い、児童と保護者がインターネットの危険性や注意点について共に考える機会を設けるなど、インターネット上のいじめの予防に向けた啓発に努めます。
- 家庭との連携
児童が自分の言動で「人のいやなことを言わない、いやなことをしない」を意識し、よりよい自分に向上できるよう学校評価のアンケート項目を設定し、学校だけでなく、家庭にも取り組みを促します。また、保護者が家庭で児童と話す機会をもち、楽しく学校生活を過ごせるよう呼びかけます。
- 地域との連携
本校では、地域の方々と連携して挨拶運動を展開したり、毎日の登下校で、見守り隊に付き添っていただく活動を継続したりしています。地域の中で子どもを育てるという雰囲気

をもっている利点を生かし、地域と連携を図りながら思いやりの心の育成を図ります。

児童が区民スポーツ大会・避難訓練・河川パトロール・PTAフェスタ・納涼祭り・公民館祭り等の地域の行事に進んで参加することを推進し、地域の中で児童と地域の人との関わりが深まるよう働きかけます。

○学校評価への位置づけ

学校評価の結果を検討し、いじめだけでなく、教育活動全体が機能しているかを確認し、取り組みの改善に努めます。

○SOS の出し方に関する教育

危機的状況に対応するため、援助希求行動（身近にいる信頼できる大人に SOS を出すこと等）ができるための教育を行います。

(4) いじめの早期発見

○積極的ないじめの認知

児童の表情やしぐさをきめ細かく観察するとともに、わずかな変化に対してもいじめの兆候ではないかとの疑いをもち、積極的にいじめを早期発見するよう努めます。

○自己チェックの活用

児童が日々の生活を振り返るための自己チェックを行い、それを学級担任が確認することにより、いじめ等の早期発見に努めます。

○アンケートの実施

定期的にいじめの実態調査を行い、いじめ等の問題の早期発見に努めます。

○教育相談体制の充実

学級担任による定期的な個別面談を通して、学習や人間関係の悩み等を聞き取ると同時に、適切な助言と学級全体への働きかけにより好ましい人間関係の構築を図ります。

○いじめに係る情報の記録

いじめに係る情報を適切に記録します。

○家庭や地域との連携

家庭訪問や電話連絡などを通して、日ごろから保護者との情報交換を密にするとともに地域の住民や関係団体との連携を進めることにより、家庭や地域における児童の変化を見逃さず、いじめ等の早期発見に努めます。

○いじめ対策委員会への報告

いじめを発見し、または相談を受けた場合、速やかにいじめ対策委員会に報告し、情報を共有します。

(5) いじめの事案対処

○「いじめ対応サポート班」による対応

「いじめ対応サポート班」を立ち上げ、事実を確認のため、組織的に対応方針を決定し、被害児童を守ります。

○被害・加害児童への対応

いじめを受けたあるいは報告した児童の心のケアを行い、安全を確保するとともに、いじめたとされる児童に対して事情を確認した上で、適切な指導を行います。

○外部人材の活用と関係機関との連携

必要に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、スクールサポーター等の専門家、警察や児童相談所、地方法務局、医療機関、民生児童委員等の関係機関と連携を取りながら、早期解決に向けた最善の方法を講じます。

○警察との連携

いじめが犯罪行為として取り扱われるべき場合や重大な被害等が生じる恐れがある場合は、直ちに警察に連絡し連携して対応します。

(6) いじめの解消

○いじめの解消については、少なくとも次の二つの要件を満たしているか確認するとともに、必要に応じ、他の事情も勘案して判断します。

①いじめに係る行為が止んでいる状態が、相当の期間継続していること。

この相当期間とは少なくとも3か月を目安とする。

②被害児童が心身の苦痛を受けていないと認められること。

被害児童本人及びその保護者に対し、面談等により確認する。

(7) いじめによる重大事態への対処

○いじめにより、「生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑い」や「相当の期間、学校を欠席することを余儀なくされている疑い(30日間を目安とする)」があるときは、国のいじめ防止基本方針やガイドライン等にしたがって、次の対処を行います。

- ・重大事態が発生した旨を、市町教育委員会を通じて地方公共団体の長に速やかに報告します。
- ・学校が調査主体になる場合は、調査組織の設置、事実関係調査、関係保護者への情報提供、市町教育委員会への調査結果の報告を速やかに行います。
- ・市町が調査主体になる場合は、事実関係を明確にするための調査に協力します。

4 いじめの防止等のための組織

(1) いじめ対策委員会

いじめの防止等に関して指導の方策等を協議するため、次の機能を担う「いじめ対策委員会」を常設し、定期的に開催します。

(構成員) 校長、教頭、教務、保健主事、生徒指導主事、養護教諭、教育相談担当者、関係職員

(活動)

- ・未然防止を中心とした、いじめ問題対応の年間行動計画の作成
- ・「思いやりや助け合いの心を持って行動できる」子どもを育てるための具体的な活動の計画、実践、振り返り
- ・いじめが起きない学校・学級づくりのための「心の居場所づくり」についての協議
- ・児童館の「絆づくり」のための計画的な教育活動の実践
- ・いじめ発見のためのチェックシステムの工夫と迅速な情報交換、連絡体制づくり
- ・校内研修や学級活動のための資料収集や資料作成
- ・計画的なアンケート調査や個人面談の計画
- ・記録の保持
- ・いじめの認知
- ・「いじめ対応サポート班」の設置
- ・教育委員会や関係機関等との連携
- ・学校評価への位置づけ、および学校いじめ防止基本方針に基づく取組みの点検
- ・学校いじめ防止基本方針の見直し

(2) いじめ対応サポート班

いじめが起きたとき、次の機能を担う「いじめ対応サポート班」を設置し、いじめの解決に向けた取組を行います。

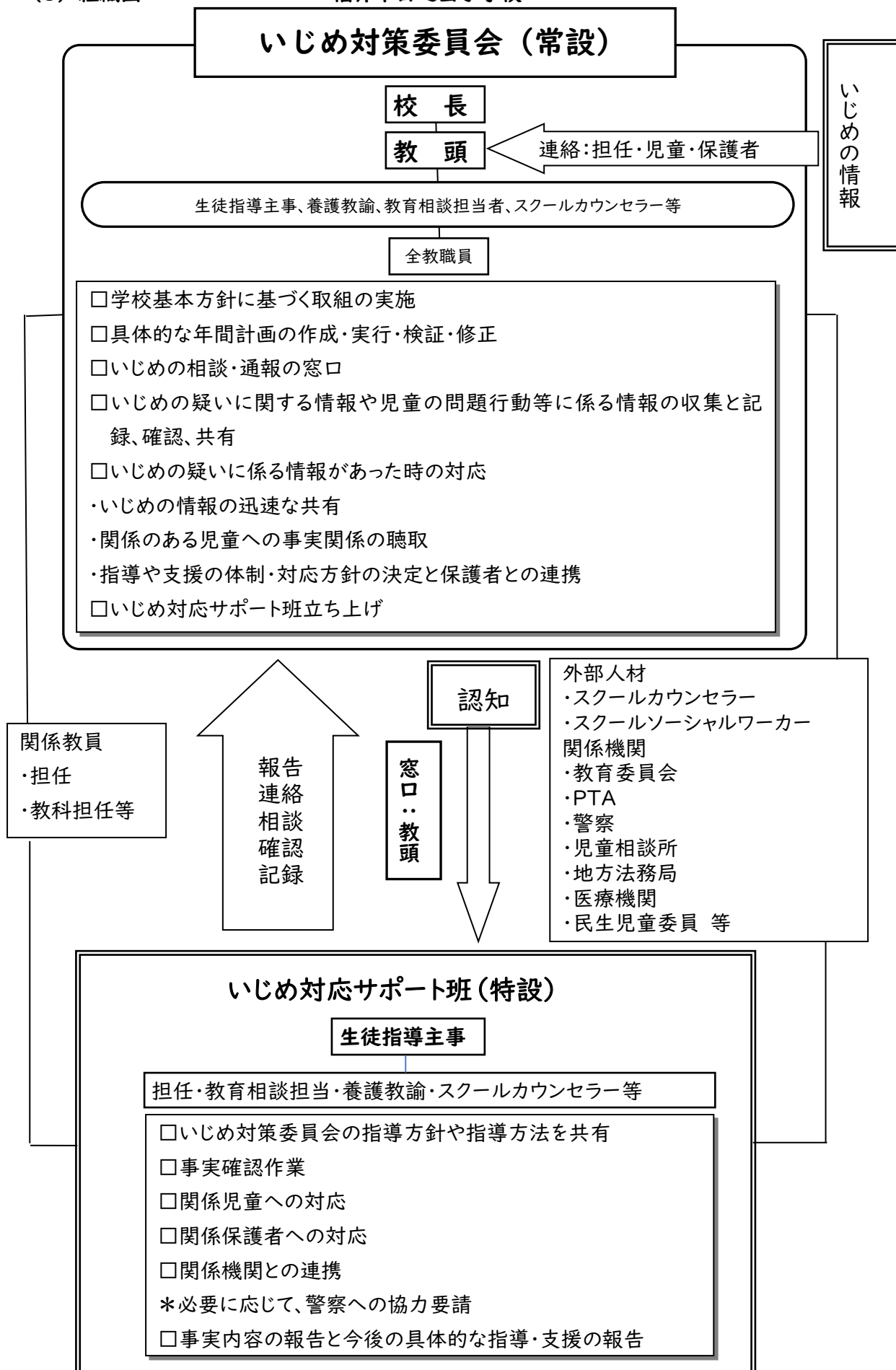
(構成員) 生徒指導主事、学年主任、担任、教育相談担当、養護教諭、スクールカウンセラー等

(活動)

- ・当該いじめ事案の対応方針の決定
- ・関係者からの聴取等による情報収集
- ・いじめ対策委員会への報告、連絡、相談
- ・被害児童やその保護者への継続的な支援
- ・加害児童への指導やその保護者への説明
- ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門家や警察、児童相談所等との連携

(3) 組織図

福井市日之出小学校



【いじめ対策の年間行動計画】〔4～6月〕

		教員の動き等	児童の活動等						
			仲よし	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
4月		校内支援委員会 ・基本方針確認 ・年間計画作成 職員会議 ・年間計画周知 ・教員の意識点検 PTA総会 ・基本方針の公表	たてわり班編制 ・配慮を要する児童を考慮した班編制 ・5、6年生のリーダー性の育成						
		登下校指導(毎月) いじめアンケート(毎月) いじめ対応サポート班 ・起きたときに即対応	地域と協力あいさつ運動 ・小中連携あいさつ運動						
		中学校区研究推進委員会 ・学習指導部 ・生徒指導部 ・健康指導部	たてわり班活動スタート ・自主的な活動 ・一年生を迎える会 ・リーダーの存在感 ・なかよし集会(低学年)						
5月		区民スポーツ大会 ・児童と地域の方々の関係作り	校内あいさつ運動 ・生活委員会の取組 ・クラスごとのあいさつリレー						
		職員会議 ・気がかりな児童の共通理解	全校教育相談週間 ・担任による、児童の悩み事や友達関係のカウンセリング ・コロナウイルスに対する個別のケア						
		いじめ対策委員会 ・アンケート調査結果分析、状況把握等	たてわり活動、区民スポーツ大会計画・実施 ・コミュニケーション力育成 ・自主的な計画 ・応援練習						
6月		授業研究 ・授業改善 ・学習規律	教育相談・いじめ防止アンケート(児童)						
		校内支援委員会 ・研修会	交通安全教室 ・正しい歩き方(1・2年生) ・安全で正しい自転車の乗り方(3・6年生)						
		職員会議 ・気がかりな児童の共通理解	児童集会 ・高学年リーダー育成 ・自主的な活動				情報モラル教育 ・ネットモラル、犯罪等		
			エンカウンター(ポジティブ教育) ・スクールカウンセラーによる、友達づくりのスキル育成のエンカウンター						

〔7~9月〕

福井市日之出小学校

	教員の動き等	児童の活動等						
		仲よし	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
7月	保護者懇談会 ・保護者との連携強化 ・児童の状況説明 職員会議 ・気がかりな児童の共通理解 ・夏休み中の指導体制策定 いじめ対策委員会 ・アンケート調査結果分析、状況把握等	いじめ早期発見アンケート（保護者） 児童集会 ・高学年リーダー育成 ・自主的な活動 ・絆づくり 3年 ひまわり教室 PTAフェスタ・公民館ふれあい祭り参加 ・保護者との活動により親子の絆を深める ・交流によって地域との関係を深める						
8月	中学校区夏季合同研修会 ・児童理解研修 ・道徳教育推進計画の確認 職員研修 ・児童理解	家庭訪問 ・休み中だけでなく、普段の様子もみて適宜訪問 ・クラスや地域の子どもの様子も把握 家庭での読書啓発 ・親子読書の推進等 親子奉仕活動 ・体験的な活動 ・親子の絆づくり						
9月	地域と協力あいさつ運動 ・地域との連携 職員会議 ・気がかりな児童の共通理解	地域と協力あいさつ運動 ・小中連携あいさつ運動						

福井市日之出小学校

	教員の動き等	児童の活動等						
		仲よし	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
10月	登下校指導 職員研修 ・道徳教育 ・人権教育 職員会議 ・気がかりな児童の共通理解 いじめ対策委員会 ・アンケート調査結果分析、状況把握等	校内あいさつ運動 ・生活委員会の取組 ・登校班・教職員によるあいさつ運動 4年福祉体験 ・車いすの生活 ・アイマスク体験 高学年 河川パトロール 地域を知り、環境へ配慮 5年宿泊学習 ・自主的な活動 ・絆づくり 校外学習 ・各学年リーダー育成 ・自主的な計画 6年 修学旅行 ・自主的計画 ・絆づくり 教育ウイーク ・全学級、保護者や地域の方々への授業の公開						
11月	校内支援委員会 ・研修会 授業研究 職員会議 ・気がかりな児童の共通理解	教育相談・いじめ防止アンケート（児童） 全校教育相談週間 ・担任による、児童の悩み事や友達関係のカウンセリング エンカウンター（ポジティブ教育） ・スクールカウンセラーによる、友達づくりのスキル育成のエンカウンター 3年 地域のお年寄りとの交流学习						
12月	保護者懇談会 ・保護者との連携強化 ・児童の状況説明 いじめ対策委員会 ・アンケート調査結果分析、状況把握等 職員会議 ・気がかりな児童の共通理解 ・冬休み中の指導体制策定	いじめ早期発見アンケート（保護者） 「正しい言葉づかい宣言」運動 ・いじめ撲滅のため、思いやりの心の育成をねらって、聞いた相手があたたかい気持ちになるような「ふわふわ言葉」を広める運動 2年 1年・特別支援学校との交流学习 ・フェスティバルへ招待						

福井市日之出小学校

	教員の動き等	児童の活動等						
		仲よし	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
1月	登下校指導(雪道) 職員会議 ・気がかりな児童の共通理解	地域と協力あいさつ運動・小中連携あいさつ運動 6年生を送る会準備 ・感謝の心・自主的な計画 校内あいさつ運動 ・振り返り ありがとう集会 ・お世話になっている人への感謝の手紙等						
2月	職員会議 ・気がかりな児童の共通理解 いじめ対策委員会 ・年度の振り返り ・新年度へ向けて計画見直し 職員会議 ・課題確認 ・計画確認	いじめ防止アンケート(児童) 1年生わくわく交流デー ・新入生交流会 ・新たな絆づくり ・異校種生との交流 6年生の中学校体験入学 ・新たな絆づくり ・異校種生との交流 見守り隊・ボランティアさんへの感謝のつどい ・地域の絆づくり・感謝の心の育成 6年生を送る会 ・感謝の心 ・次の学年の自覚						
3月	校内支援委員会 ・次年度への引き継ぎ 卒業・進級認定会 ・気がかりな児童の共通理解 職員会議 ・春休み中の指導体制策定	情報モラル教育 ・ネットモラル、犯罪等 校内奉仕活動 ・学校地域に感謝して						